第21回横浜市都市美対策審議会政策検討部会会議録	
議　　題	議事１　魅力ある都市景観の形成について（審議）
日　　時	令和２年２月26日（水）午前９時45分から正午まで
開催場所	横浜市開港記念会館　９号室
出席委員 （敬称略）	西村幸夫、大西晴之、国吉直行、鈴木智恵子、関　和明、中島美紅
欠席委員 （敬称略）	真田純子
出席した書記	堀田和宏（都市整備局企画部長）、嶋田　稔（都市整備局地域まちづくり部長）、梶山祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）、鴇田　傑（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
説明者	【議事１】 関係局：松嵜尚紀（都市整備局ＩＲ推進室ＩＲ推進部長） 　　森　隆行（都市整備局ＩＲ推進室ＩＲ推進部ＩＲ推進課担当課長）
開催形態	非公開
決定事項	議題１：全体として概ね了承するが、さらに各委員に個別にヒアリングし、結果を部会長に報告すること。
議　　事	【議事の非公開について】 （西村部会長） 　まず会議の公開について、事務局から説明をお願いしたいと思います。 （梶山書記） 　本日の部会は議事１のみですが、同条例７条２項６号の、市の事業等の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるものに該当することから、同31条３項に基づき非公開といたしたいと思います。 （西村部会長） 　事務局から非公開の提案があったため、議事１について、横浜市都市美対策審議会運営要綱第11条に基づき、非公開ということにします。 （１）　魅力ある都市景観の形成について（審議） 議事１について、事務局から説明を行った。 （西村部会長） 　今日は主に資料２の中で、気になる表現や過不足、誤解されないかどうか等をチェックしていただきたいと思います。特に３ページ、４ページの部分はすぐにでもパブリックコメントで表に出ますので、ここは注意して見ていただきたいと思います。 （大西委員） 　意見というか、質問的なことです。４つのコンセプト以外にも出てくると思うのですが、世界最高水準のＩＲとしてというような表現で、何を言わんとするかというのは理解できるけれど、具体的なイメージとして何が世界最高水準なのか。ＩＲそのものについて、自分も含めて多くの方の理解がまだあまりないと思うのです。何が世界最高なのか、どこと比べて優位性があるのかとか、そういう意味合いが、明確なイメージが湧きません。 　それから、今回の横浜ＩＲというのが、オーバーに言うと、来街者というかターゲットは全世界が相手だと思うのです。そういう前提で考えると、まだまだ日本という国について、東南アジアとかそういうエリアでは知らない人はまずいないと思うのですが、遠く離れたところでは日本そのものについての認知度が低いところもあるかもしれない。そうすると、この説明においても、まず日本というものを知ってもらうこと、それで、その日本の中における横浜の立ち位置、そのあたりの説明というか、そういうものは必要ないのかという気がしました。いずれにしても、あらゆる情報を日本国内だけでなくて世界に向けて発信し、またその発信について、世界から関心を寄せられるようなことが狙いではないかと考えているのです。横浜らしさとかそういうことは非常に重要なことだとは思うので

すが、まず広い意味で日本を知ってもらって、その上の横浜の個性が何であるかという流れが必要かなと感じました。

それから、枝葉的な話かもしれませんが、このＩＲというのは、オーバーに言うと365日営業し、時間も24時間ということもないのかもしれないけれども、かなり長時間の事業展開ということになるのでしょうか。それによって、景観であるとかも変わってくるのではないかという気がいたします。

（松嵜部長）

まずは、横浜ＩＲの方向性の28ページをご覧ください。世界最高水準というのは何だということですが、ＩＲ自体は2010年のシンガポールのＩＲで統合型リゾートという言葉が初めて使われた契機になったと言われています。あまりＩＲの定義が定まっていない中で、江原ランドですとか、ラスベガスとか、マカオですとか、いろいろな事例があります。それらの事例を踏まえましてＩＲ整備法を日本でつくり、新しい日本型のＩＲをつくっていこうという法制になっております。それはまさしく次世代の、世界の競争でも勝てるＩＲをつくっていこうという考え方のもとに、日本型ＩＲのＩＲ整備法が法制化されたという認識を持っています。それに倣い世界最高水準のＩＲ、次世代型という表現がいいかどうかはわからないのですが、そういったものを具現化していきたいという意図でございます。28ページに各施設が書いてありますが、例えばＭＩＣＥ施設に関しましては、日本にこれまでにない規模と価値というのですか、品質のものを求めていきたいという内容ですし、魅力増進施設につきましては、日本を世界に発信する、日本の伝統文化を発信していくような施設をしっかりと位置づけたい。また、送客施設につきましては、あまり他のＩＲではないのですが、ここを起点として日本全国に送り出していくような、ここで日本全国の観光地をバーチャルに体験しながら、全てコンシェルジュ的に旅行プランをつくって手配してもらって、そこから発信していくような施設をつくっていきたい。ホテルに関しましても、横浜にないラグジュアリーなホテルからリーズナブルなものまでそろえていきたいというようなこと。また、エンターテインメントにしましても、世界一流のものを持ってきたい。それを日常、横浜市民の方もできればリーズナブルに見られるような形にしていきたいということ。カジノにつきましても、規制も含めましてしっかりとした管理下のもとに運営していきたいというようなことをトータルとしまして、世界水準のＩＲということです。概念的で申しわけないのですが、そういった意味を込めて書かせていただいているということでございます。

それと、日本における横浜の位置づけでございます。どちらかというと26ページの基本コンセプトの中に述べさせていただいているのですが、横浜は開港の地ということで異文化を受け入れてきた街であると。その中で発展してきたという精神、進取の気性というのですか、ハマっ子というのですか、横浜らしさというところで、まずコンセプトの中で新しいチャレンジをしていこうということで、ここの欄では書かせていただいています。日本の中での位置づけということに関しては、ご指摘のように開港の地であるということしか記載していませんので、そこのあたりは少し工夫が必要かと、今のご質問を受けましてそんな感想になっています。

それと、24時間営業かどうかにつきましては、やはり観光の振興ということで、ナイトタイムエコノミーですとか、そういったことが非常に重要になってきますので、そこは重点的に事業者にも要求していきたいと思っております。時間軸としては24時間賑わっているというのですか、そういったことも踏まえましてＩＲをつくり上げていきたいという趣旨が込められております。

（鈴木委員）

３、４ページのところで、世界標準を目指しているということが書かれていますが、日本人向けというか市民向けと、世界標準を目指すというのが混在してしまっていて、よくわからないというのが全体を見たときの感じなのです。日本の位置づけというのは世界からでは極東ですので、例えばヨーロッパの人などは１回来たらあまりもう来たがりません。要するに遠過ぎるというのです。中国まではよく行くのだけれども、日本はもういいという感じで、日本に来てくれと言われても、１回来た人は、ちょっと遠過ぎると。日本だけ離れているからみたいな感じのことをおっしゃる方もいるのです。そういう方が日本に求めるものというのは、日本文化みたいなところです。そうすると、例えば伏見稲荷みたいなものが大人気になってしまうようなことも出てくるわけです。だから、横浜に来た方が行きたがるのは三渓園とかああいうところで、山手などは全然行きたがらない。要するにヨーロッパ、ストックホルムなどの方には、西洋館は当たり前で、非常によく整備して残していますし、ヘルシンキなどは、いい建築物だと建て直すとか壊すとかいう発想がないものですから、ヘルシンキ大聖堂というのがナンバーワンだとしたらどの地図を見ても全部ナンバーワンで壊さないということになります。全体で、外国人向けの観光、ツーリズムなどもやっているのです。

そういうところから来た人というのは横浜の何が魅力かというと、エキゾチックとか、そう考えて

もちょっと今は近代化し過ぎていて、そういった情緒的なところは大分薄れているのです。日本人も見据えて大きなまちづくりをやるのか、本当に外国人に来ていただくということだけ考えてやるのだと、何かちょっとその辺を区分けしないとうまくいかないのではないかと思います。もしここで外国人にいっぱい来てもらおうと思ったら、カジノというのが結構集客という点では大きな要素になるような気が、私はしております。そうすると、カジノというのをもっと全面的に出さなければならないようになりますが、カジノを隠すのか、出してやるのかというところも、ちょっとどっちつかずというか、曖昧にしておいてうまくまとめようとしているのかという感じも私の場合はしてしまいました。世界標準というのはかなり難しくて、例えば港町で美しいところはいっぱいありますから、そういうところと競合していけるのかどうかということです。地理的に果てにあるわけですし、世界中の人が集まるようなものを山下ふ頭につくるという理念はあっても、豪華なホテルもいっぱいあり、それだけで人が来てくれるのか。

ここの中では、都市デザインですからそういうふうに表面立ててそういうことは出していませんが、やはりカジノをやるという、結局そちらに標準を合わせたようになってしまうと。例えばシンガポールはカジノが都市計画ですと言う方もいるわけだし、そんなまちづくりをしています。ただ、非常にそこは区分けしてあって、地元の人は全然行かない。あれは別物で、ほかの観光客が来てお金を落としていってくれるところで、非常に割り切ってつくってあって、市民も別に反対するということはなくて、ただ、雇用とかは生んでいると思いますが、自分たちとは関係ないものであり、足を踏み入れることもないということを聞いたことがあります。だから、日本の横浜でやる場合にその辺の区分けというか、パブリックコメントを求めるにしても、これだと市民の方もちょっとわからないのではないですか。だから、都市デザインとか、デザインのところに気を使ってやっていこうというのは全体としてはよく感じられるのですが、何か世界標準向けなのか、それとも市の大きな開発だから、市民・日本人に向けてなのかという、その辺の整理をしたほうがいいかと思いました。

（西村部会長）

２点あるような気がします。１つはカジノをどう扱うのか。市民とは別のものとして扱うのか、それとも、これを見ると市民がみんな行けるようなところにたまたまカジノがどこかにあるという感じなのですが、そういう位置づけでいいのかという話。それからもう一つは、海外の人に向けてこれがどれぐらい魅力あるものとして伝わるのかということ。大西委員のご意見もそうですが、日本人が読むと、横浜はこういうことをやってきたので、こういうことが書いてあっても理解できるのだけれども、海外の人に向けてどういうふうなメッセージとして伝わるのかという意味ではやや懸念があると思うのです。いかがでしょうか。

（松嵜部長）

まず、カジノの位置づけですが、その前提として集客の話があったと思います。海外の人は、三渓園ぐらいしか魅力がないというお話もございましたが、まさに横浜は国内向けには非常に異国情緒にあふれてという人気のスポットなのですけれども、海外の方からすると、それは自国にあるものということで、日本的なものからするとなかなかキラーコンテンツがないということです。今回は、世界の人をターゲットとして海外から人を集めてきたいという意味で、まさにこのＩＲでキラーコンテンツをつくっていきたいという意図でございます。ただ、それがカジノかというと、実は我々はカジノではないと思っていまして、カジノはあくまでも全体を回す資金的なエンジンという位置づけになっています。１つはＭＩＣＥ施設です。国際会議場ですとか展示場、それで大規模な国際会議や展示会、研修旅行を含めた形で、海外から人を集めてきたいというのがございます。それと、我が国の伝統文化を発信する魅力増進施設ということで、日本の伝統文化を発信するようなものを、これは何になるかというのはまだ、いろいろな事業者から提案が来ていますが、シンガポールではそういった魅力増進施設がＵＳＪであったり、海洋博物館であったりとか、そういうことになっていますけれども、そういった施設をつくっていきたいと思っています。

また、建物自体もシンガポールのように、シンガポールはああいったアイコニックな施設で、あそこに行くことが一つのステータスみたいな形になっていますが、そういったことで人を集めていきたいということです。あくまでもカジノは広告宣伝も実は国内では禁止されていますので、大々的にアピールするものではないという認識になっています。そういう中では、カジノというよりはＩＲの他施設で人を呼び込み、集客をしていきたいという考え方でございます。

それと、世界を相手にはするのですが、国際標準の豪華なホテルですとか、一流エンターテインメントですとか、そういったものは海外の方だけのものではなくて、やはり市民の方にもお使い願いたいということで、そこがちょっと曖昧だと言われれば確かに曖昧かもしれないのですけれども、その

	二兎は追っております。市民の方も使えるような空間、それは海外の人たちが行くような山下ふ頭だけではなくて、市民の人が山下公園の延長から日常憩える、散策できたり、ショッピングを楽しめたりというような空間としてもつくっていきたい。ただ、それが今までにないクオリティーですとか、大規模なものですとか、違ったものをできればつくっていきたい。それで市民の方にも楽しんでいただきたいという、そういう意味では二面性を追っているので、ご指摘のように曖昧なのかもしれませんが、そういったことを目指しているということになります。 （森課長） カジノにつきましては全体の、ＩＲを構成する中の一つという位置づけになります。全体の方向性の冊子、28ページの世界最高水準のＩＲの実現ということでございますが、その右下のカジノにありますとおり、ＩＲ関係法令等に則した施設とし、ファミリー層等の主動線とは分離された適切な配置計画やデザインとするということをここには記しておりまして、節度を持ったカジノ施設というものを求めていきたいと考えております。 それから、世界最高水準のＩＲということで、海外からも国内からも、市民もということで、二兎、三兎を追っていく中で、まさにコンセプトの１番、「長く愛され、何度も訪れたくなる都市・横浜をつくる」ということで、常に新たな価値を生み出す取組を継続してほしいということを事業者に言っていきたいと考えております。一度来て飽きてしまってということではなくて、何度でも来たくなるように、常に施設自身を更新して、価値を向上させるような取組を続けてほしいということを、１番のコンセプトに込めております。 （中島委員） コンセプトを拝見させてもらって、１と２は結構外観のハードのことが書かれていると思いました。３が多分、内部に関してだとは思うのですが、内部に関してのところがちょっと曖昧なのではないかと感じました。どうしても公共空間を設けるとか、親水性の高い空間を創出するとか、あと、それこそ景観を楽しむ機会の増加はソフトな面のことだと思うので、カジノをどう配置するかというゾーン分けについても、奥に配置するというのもあれば一つ一つゾーンで分けるというのもあると思いますし、内部に関してのつくり方をもう少しコラムとかで参照できるようにしたらいいのではないかと感じました。 （西村部会長） ３番目のコンセプトに関して、もう少しいろいろなことが言えるのではないかという意見ですね。 （森課長） ３番は中での体験の場というところで、景観だけでなくて、文章中にもありますように、山下ふ頭自体にこれまでにない体験をもたらすというところは一つ大きなコンセプトとしております。コンセプトのアイデアの中ですと、確かに景観面ということで外への見え方、切り取り方というところがございますが、例えばアイデア⑱です。文書だけになってしまいますが、カジノが必要以上に存在感を顕示しない工夫ということで、具体的な位置を定めるというところは、やはり事業者の創意工夫ですとか、全体コンセプトにかかわる部分ですので、この工夫というところをアイデアとしては載せさせていただいているというところです。あとはアイデア⑳です。市民に開かれたスペースと、非日常的な空間というのが混在しながら一体的に楽しめるという回遊性の工夫をぜひ求めていきたいということで、このアイデア⑳を載せております。ご指摘のあった視点ということで、文章の工夫などで取り入れていけたらと思います。 （関委員） ほかの委員の方がおっしゃられたことを私も感じています。もう一つ、まだこれはドラフトなのかもしれませんけれども、資料１の「方向性」が３月６日以降の１カ月、市民意見募集、パブリックコメントで提示されるものだということはわかりました。今日準備されました景観デザインノートは、そのときのパブリックコメントの対象にはならないのですよね。 （松嵜部長） 横浜ＩＲの景観デザインノートはパブリックコメントの対象にはなりません。ただ、このうちの１番目の方向性の部分だけは抜粋されて載っていくという形になっております。 （関委員） では、方向性の中の第２章で、都市デザイン・景観形成の４つのコンセプトというところにそのエッセンスとして出るということですね。では、景観デザインノートは、今度は実施方針とか募集要項のときの別紙として添付されると。それはわかりました。 それで、そもそもインテグレーテッド・リゾートというのは何なのかという話と、それが世界最高

	水準を目指すときに何が必要なのかという話は私も気になっていました。カジノというのは日本人にとっては目新しいのでそちらに目が向きがちですが、むしろ私は世界最高水準のものというと、例を挙げればミラノのミラノサローネというデザインなどのイベントとか、ベネチアのビエンナーレとか、あと、近いところではラグビーの世界選手権とか、そういうスポーツ系、文化系、アート系、あるいはこれは皆さんご存じかもしれませんが、スポーツだとモナコのＦ１とかです。最近はフォーミュラＥというのもあるみたいですが、何かそういう１週間ぐらいかけて世界中の国際的なトップレベルのアイテムがここへ来る。オリンピックが一番わかりやすい例ですが、毎年やるわけにはいかないので、何かそういうものが資金的なエンジンのカジノ以外に常に準備されていないといけない。最低年間４つとか６つとか、今の段階では担保されていないのかもしれませんし、景観の問題ではなくプログラムの問題かもしれませんが、気になっています。そこをわかりやすく説明できるといいかと思います。ディズニーとかユニバーサルとか、テーマパークもあるのですが、もうちょっと落ちついたもので、以前から噂で、グッゲンハイムミュージアムが世界中にそういうブランチを持っているのです。最近ではロシアなどにも出ていますし、そういう本当に誰もがトップレベルだと思うものが、常設でなくてもいいのですが少し見えてこないと、なかなかイノベーションリゾートというレベルが理解できないのではないかというのが感想でした。 （松嵜部長） 　まさに委員ご指摘のように、トップレベルのイベントですとか展示会ですとか、そういうものを誘致していきたいという思いはございます。ただ、それがやはり事業者によって得意分野があり、展示会に強いですとか、エンターテイメントに強いですとか、そういった形でいろいろな事業者によって得手不得手が今あるような状況でございます。そういう意味では、他のＩＲもそういう形で、エンターテインメントに長けているところはそこをベースに売っているという形になっていますので、今の段階でそれを例示しますと、どうしても事業者が偏っていくという形になってきます。一流のエンターテインメントを持ってきたいという思いは委員がおっしゃるような形で我々も持っていますけれども、今、具体的に示せていないというのが現状ではございます。ただ、今、ＲＦＣということで事業者にヒアリングをしていますが、そういった提案は幾つかいただいてはいるところです。 （西村部会長） 　徐々にイメージが固まってくるということですか。 （関委員） 　もう１点は、横浜あるいは日本というのが、特に観光みたいな側面で世界中からどういうふうに見られているかというと、鈴木委員がおっしゃるように極東なのです。先週ロシアに行ってきまして、極東のロシアなのですが、ウラジオストクなどは地続きでヨーロッパから来ますけれども、あそこも軍港都市からソ連が崩壊した後、立て直すというので、一生懸命、都市再生をやっています。まだちゃんとしていないのですが、やはりそのときにリソースとしてバレエとオペラですか、オペラハウスをつくって、時々モスクワから呼んできています。日本人のオペラが好きな人が時々行っています。まだ認知されていませんが、そういうものをつくったりしています。また、そのうち発表されると思いますが、かなりケバケバしいシンボリックな施設を丘の上につくるみたいなことをやっています。結構、そういう発想を強行しますよね。インバウンドを中心にした都市再生みたいなもの。ですから、その辺はこれからの問題かもしれませんが、背景というか、全体の計画を推進していく中で目を向けていただきたいというのがありました。それは意見です。 　それで、後半説明がありましたデザインノートはかなり細かくなっていますが、これはまだいろいろブラッシュアップできる感じがあります。特に応募してくる事業者は外国の方が多いと思いますので、実施方針とか公募のときに添付するという段階までによりわかりやすく、内向きではなく、外に向けてわかるように。多分、英文などもつけられると思うので、画像のイメージの選択なども詰めていっていただきたいと考えている次第です。 （西村部会長） 　ありがとうございます。確認ですが、このデザインノートもそんなにのんびりしてはいられないのですよね。 （松嵜部長） 　デザインノートは、６月に実施方針を確定していきます。それとともに事業者公募に入っていきますので、６月までには確定していきたいと。 （西村部会長） 　確定しないといけない。ですから、内容についてタイミングとしては随分前に議論しておかなけれ

	ばいけないということですね。 （松嵜部長） 　はい。ご意見をいただきたいと思っています。 （西村部会長） 　事務局からは、今日決まるのであれば決めてほしい。決まらなければもう一回位やって、それがぎりぎりだと。あまりのんびりしていられないという感じです。 　議論を聞きながら１つ思ったのですが、私のほうから質問です。シンガポールがモデルだということになると、例えばカジノがあると、ユーザーのイメージとしては極東とはいえ、中国のお金持ちがどんと来るような感じがするのです。どういう人たちがどれぐらい来ていて、ボリュームがどうで、ＭＩＣＥはＭＩＣＥで状況が違うと。つまり、我々が今ここで議論しているＩＲは大体どんな人が、どれぐらいの人が来るのか。欧米の人が来るイメージで考えていたら、実はものすごく中国人ばかり来るようなことだと、全然状況や対応も違うような気がするのです。その辺はもちろん情報があると思うのですが、それはどうなのですか。 （松嵜部長） 　これは市民説明会でもその内訳、根拠を出してほしいと言われているのですが、やはり事業者によって施設のマーケットが違うので一概には言えないのです。まず、収益に関しましては、全体の収益の７割をカジノで稼ぎ出しているのがマカオとかシンガポールです。マカオはもうちょっと多くて、８割、９割です。ただ、ラスベガスになると５割ぐらいになります。それはエンターテインメントに特化していますので、エンターテインメントの収益が多いという構造になっています。それと、収益の相手先なのですが、事業者によってやはり超ＶＩＰの囲い方というのがそれぞれのオペレーターによって違う形になっていまして、そこの金額というのは我々が想像つかない金額で使ってくるという形になっています。そこはそれぞれの事業者のノウハウになってきているようです。 （西村部会長） 　それぐらい事業者によって中身が違ってくるということですか。それも怖いですね。 （松嵜部長） 　そういう意味では、事業者は世界でのマーケティングをしている形になっています。 （中島委員） 　ちょうど今の時期だからだと思うのですが、人々はきっと集客施設が怖い、ウイルスなどが怖いと思う方が多いと思っています。今度のパブリックコメントでは衛生とか環境に対してはどう伝えていく予定がございますか。 （松嵜部長） 　まさしく今、コロナ、ダイヤモンド・プリンセスということで横浜が注目されてしまって、いい教訓ということで、実はそういった視点があまり我々もなかったのは確かです。震災対策ですとか、津波対策ですとか、そういった災害対策のほうにはしっかり目を向けていたのですが、ウイルスですとかそういった面に関してはちょっとまだ検討が薄いというのが正直なところではございます。そこはご指摘をいただきながら検討していきたいと思います。 （中島委員） 　どうしても海のあたりだと怖いと思う方が多いと思うので、私はコメントしませんが、そのコメントについて考えていたほうが安全だと思います。 （松嵜部長） 　ご意見を含めて検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。 （鈴木委員） 　公共空間がどのぐらいあるかというのはすごく大事なことだと思います。例えば大きな広場であるとか、事業者側にこれぐらいの公共スペースをとるようにとか、どのぐらいの面積をとるとか、そういうことはちゃんと言っているのですか。例えば、またヘルシンキの話になってしまいますが、ヘルシンキの大統領官邸の前では毎日朝市が開かれているのです。そこは港に面したすごく景観がいいところで、広場が結構広いのですが、観光客とかそういう方が来るだけではなくて、普通の市民の人が買い物するところなのです。そこの方が、品物が新鮮でいいからというので、あまりスーパーマーケットとかには行かない方が結構多いのです。でも、毎日市を開いて生鮮も売るわけですから、ごみもたくさん出るのです。どうするのかと思って見ていましたら、時間が来るとぱっと片づけて、清掃車が来てきれいにしてしまって、20分ぐらいで本当に何もなかったかのように広場にちゃんと戻るのです。だから、いいものをつくるというのも大事ですが、事業者の方にソフトの面で工夫するようなこ

とも謳ったほうが、そういう使い方もあるということです。大統領官邸の前で毎日やっていて、休みは土日だけです。市民が買い物をするところなので、そういうソフトの面で、いろいろと多様性のある都市の使い方をしていくというのが一つあってもいいのではないかと思いました。

（西村部会長）

なるほど。エリアマネジメントみたいなことです。どうですか。

（森課長）

まず、公共空間で求めているものということで、今回資料としてはおつけしていないのですが、山下ふ頭の中は港湾計画上47ヘクタールのうち、14.9ヘクタールについては港湾緑地という位置づけがございます。あの空間の中のどこという指定まではないのですが、14.9ヘクタールについては市民の歩けるような空間になってくるということが一つ、条件としては出てまいります。そこでどういうことがなされていくかということが、まさにアイデアで盛り込んでいきたいというところでございます。コンセプト３のアイデアでも、例えば市民の方々に新たな視点場を複数設けることですとか、あとはアイデア⑭ですと、高層部に誰でもアクセスできるような、これも新たな視点場の延長かもしれないのですが、高層部に設けるというのも一つ、アイデアとしてはあると思っております。アイデア⑰をご覧いただくと、多様なアクティビティの舞台となる、大小様々な大きさ・性格の広場・空間を設けるというのも盛り込んでいるところです。委員にご指摘いただいたとおり、ハードの面が確かに多いなというのはございますので、ソフト的な工夫というのもこの中にぜひ盛り込んでいければとは思っております。それから、コンセプト４の中でも、26ページになりますが、アイデア㉖、㉗、㉘あたりにありますように、例えば㉖ですと、水辺にあることを最大限に生かし、様々な活動や賑わいを他の都心臨海部とリンクするというところで、山下ふ頭だけでなくて、都心臨海部の中のこのエリアをどうしていくかというのを引っ張っていってほしいということですとか、あとは㉗も、様々な活動というのを公共空間によりどういうふうに見せていくかという面も強調したいと考えております。こういったものも若干整理を加えながら、ソフト的な部分というのはもうちょっと書き加えられればと思います。

（西村部会長）

そうですね。１つぐらいアイデアで、エリアマネジメント的な、ソフト的に地域をうまく使いこなしたり、場面転換したり、汚れないような工夫をするというようなことが書いてあるとよさそうですね。ありがとうございます。

割と広くＩＲ全体の議論がなされているのですが、３ページ、４ページに関しては特に今のところご意見がないということは、あまり違和感がないというふうに理解してよろしいのでしょうか。だとすると、資料２の３ページ、４ページのところが一応パブリックコメントに出るということで、もう３月６日には出てしまうので、ここはできれば今回で確定したいということなのです。いかがでしょうか。

確かに、先ほど世界最高水準のＩＲというのが一体何だというのがあったので、ここのところは何か工夫の仕方を考えていただきたいというのはあります。あとは、４つのコンセプトのうち２つ目は、割と外からの視点でこの山下ふ頭を考えるので、３つ目のコンセプトは山下ふ頭の中でどういうことができるかと考えられているということでした。どうぞ。国吉委員、お願いします。

（国吉委員）

遅れて来て申しわけないです。全体的に網羅されているとは思いますが、横浜の都市景観をつくってきたプロセスを考えて、ここがハーバーリゾートといいますか、インナーハーバー地区の次の時代で改変していく一つの役割を果たすというような視点があります。その辺を考えたときに、水上ネットワークとかいろいろな、インナーハーバー地区全体に波及するような視点が非常に重要だと。そういったものをここで完結するのではなくて、ほかにつなげていくようなシステムの提案と、できれば他と連携するシステムみたいなものの提案が必要だと思うのです。

先ほど公共空間という話がありました。公共空間は当然大きくつくられるのでしょうけれども、ただ公共空間を大きくつくればいいというものではなくて、そこの活用にしても、インナーハーバー地区の他のエリアの今後の展開との活動を増進するような新しい試みをそこで行っていく、そういうことにチャレンジしてほしいということが大事だと思うのです。ですから、一定のところまで自分たちが負担を持ってマネジメント組織をつくりますよと。他の地域にも、あるいは港湾局とか港湾関係の事業者にも働きかけて、そういうものをつくる担い手の一員になりますみたいなことを、横浜市としては要求していってはどうかという感じがするわけです。ですから、言葉尻はこれでいいのですが、具体的に展開する内容が非常に抽象的で終わってしまうと市民にも説明しにくい。このぐらいのこと

	をやりますということで、言ってみればシンガポールをモデルにしますと言わなくていいと思うのです。横浜モデルをつくるのだと、シンガポールはシンガポールであるということを、ぜひ、それが活動として重要だと思うのです。 　あと、景観のところなどで横浜のシンボルをつくる、新しいシンボルをつくると書いてあるところに大きい箱が３つ、４つ書いてあって、超高層をどんどんでかくつくりなさいみたいに誘導しているような雰囲気があるのです。それがシンボルだと勘違いされるような絵もあるので、景観については高層にするか、割と中低層にするか、いろいろな議論はあるけれども、あまり第二のみなとみらいをつくろうみたいな感じで意図的に誘導する必要はないと思うのです。みなとみらいとは違う役割を果たす空間構成を期待する。それは山手地区との連続なのか、対比的なのかとか。ただ、第二のみなとみらいをつくりますみたいな雰囲気でしゃべられると、それはまたみなとみらいとバッティングするのではないかみたいな話も含めて出てくるわけです。ここなりの活動というのが、先ほど言ったような新しいリゾートといっても、市民も含めた、インナーハーバー地区全体の魅力をプラスしていく役割を大きく担ったリゾートといいますか、あるいはカルチャーとかの増進施設にしていくとか、そういうことをもっと強く謳ってほしいという感じがします。だから、それぞれの言葉の中に少しそういうものがあって、全体ににじみ出ているような工夫です。中に超高層のポイントが幾つか建つのがいいのか、それとも板状のものが幾つか入ったほうがいいのかとか、いろいろな議論はあるわけですが、いずれにしてもただの板状みたいなことで風通しを悪くするようなものはだめだと思うのです。その工夫の中で何か納得できるようなものを求められているということは、横浜独自のこれまでつくってきたプロセスもあるので、その辺をわかった上で提案してくださいというのを強く打ち出していけるというのが大事かと思っています。 　その中には、関先生がおっしゃったようなシンボリックな文化を意図した、あるいは建築そのものが魅力的な、グッゲンハイムやビルバオみたいなものがあってもいいと思うのですが、一番狙いは、そこで働くことによって、今までやろうとしてきたことがインナーハーバー地区においてこういうふうに増進されますというようなことは、ぜひ役割として担ってもらいたいということが大事かなと。その辺を工夫していただきたいです。 （西村部会長） 　ありがとうございます。幾つかありましたが、書かれていることもあると思うので、何か説明を。 （松嵜部長） 　ディテールから言うと、水上交通の件はおっしゃるとおりで、21ページのアイデアの中では書かせていただいています。多分、国吉委員がおっしゃっているのは、全体のマネジメントをどう考えていくんだということだと思っております。横浜市で今、一番弱い部分はやはり観光政策で、観光ＤＭＯが実質ないという認識を持っております。そういう意味では、やはり地域として、観光をちゃんと推進するようなエリアマネジメントを、これを機にしっかりと仕掛けていくというのが我々の思いでもありますので、アイデアでもＤＭＯということを書かせていただいています。そういった組織体を、まだどういうふうにつくっていくかというのは議論の中なのですが、しっかりと横浜の観光を変えていきたいというか、進化させていきたいという思いがあります。そういった意味で、この地区だけではなくて全体のマネジメントを、観光という視点で今回仕掛けていければという思いがございます。 （西村部会長） 　あと、MMとの差別化といいますか、こちらとしての個性みたいなものはどうですか。 （松嵜部長） 　まさしく、MMと同じものをつくるつもりは全くございません。コンセプトの４番にもありますように、今、いろいろな政策、ＳＤＧｓですとか、観光ＭＩＣＥですとか、文化芸術ですとか、これまで仕掛けてきたことの次のステージのショーケースになるような、未来型の街を仕掛けていきたいという思いが強くございます。既存踏襲型ではなくて、次世代のまちづくりは、今まで仕掛けてきている創造都市ですとか、ガーデンシティも一つだと思っています。そういったことも含めて、次世代の街、未来型の街を模索していきたいという思いを持っています。 （国吉委員） 　どうもありがとうございました。一番大事なのは、考え方、コンセプトだけを提案されて、あとは誰がやるのかみたいなことにならないように、事業としてもかなりの部分を担っていってもらうということを期待したほうがいいということです。それで、場合によっては担い手を育成するような仕組みもです。関内の今の市庁舎跡地のプロジェクトなども、アカデミックな、大学が入ってきたり、関内地区にはいろいろなイノベーション機能がたくさんできているわけです。ですから、今度は海洋リ

	ゾートで、カヌーをやったり、ＳＵＰをやったり、皆さんいろいろやっていらっしゃいますよね。そういう方々や、あるいは水上交通です。ただ、まだ実験的な段階で、次にどういうふうに交通体系、あるいはリゾート機能としてやっていくのかというのは、政策としてまだきちんと出されていないわけで、実験はやりましょうぐらいで終わっているわけです。それを軌道に乗せるぐらいのことに踏み込んでいってもらうということ。だから、最初ここにつくって、場合によっては瑞穂ふ頭の向こうのほうに次の拠点ができるとか、幾つかつくっていけるわけです。 　そんなウォーターフロントの将来への期待感というものにある役割を果たすという、その前段を少ししゃべっておかないと。ここだけで全部をやりなさいというのではなくて、将来はそういうところにも働きかける。そうすると、ほかのところでいろいろ開発しているものがあるわけなので、そういうところにも一緒に、同じように働きかけることはできるわけです。その辺の連携関係を強めていくというのがインナーハーバー地区の活性化、活力強化みたいなところで大事だと思いますし、必ずしも高密度な賑わいだけではなくて、ＳＤＧｓという言葉もありますから、スローライフな空間とかもこのエリアなどにはあってもいいわけです。そんな多様な今後の横浜ライフというものもここでモデル的にスタートしたいというような願望を、行政として、横浜市としてぜひ打ち上げてほしい。そういうものがあると、やはり空間のつくり方も変わってくるわけです。そういうものができる空間というのはここだなという納得。その辺、機能と空間がうまく、両方ともオリジナリティーがあるように、引っ張り出すようにぜひしてほしいです。 （西村部会長） 　よろしくお願いします。私も聞きながら１つ思い出したことがあって、こんなことがここでできるかどうかわかりませんけれども、私はＭＩＴにいたのでボストンで見たら、あそこの川のところはヨットがたくさん出ているのです。ほとんど同じスタイルのヨットで、あれはすごく意図的にあそこでヨットをやらせているなと思ったのです。多分あそこにヨットが出てくるような仕組みをつくって、そこを風景としてできるような戦略が立てられているという感じがしたのです。ここにヨットが似合うのかどうかわからないけれども、この水面はこんな感じなのだというのが市の側としてあって、そういうものをやりたいと。例えばですが、ヨットがずっと浮かんで、たくさんいるような水面があるところをつくりたいということがこちら側にあるとすれば、そういうものを誘導して、それを背景として成り立つものがこんな魅力的なものになるというようなことを提案してもらうみたいな、こちら側にある程度のビジョンがあるのかなと、今、お話を伺いながら思いました。何かありますか。 （松嵜部長） 　市の側としてこういうことをしてほしいということはいろいろあるのですが、できるだけ事業者のアイデアを引き出したいというのが、今、ＲＦＣの意図でございます。そういったことを引き出しながら、最終的には市の実施方針という中で、ある程度、一定規模の市の意向を示していきたいと思っております。ただ、体系的に言うと、今まで議論していることとそんなにずれていることではございません。やはり観光ＭＩＣＥですとか、文化創造都市といった人の活動を誘発するような仕掛けですとか、今、横浜市が進めていますガーデンシティということで、緑を機能的に、人々が憩う空間をつくったり、そういったことはしっかりと実施方針の中に位置づけていきたいと思っております。 （梶山書記） 　今の補足説明という形になりますが、先ほど国吉委員がおっしゃられた地区のシンボルみたいな話というのは、前回の資料で出させていただいていた話だと思います。今回はそういったところではなく、例えばコンセプト１の、インナーハーバーの玄関口としてのみなとみらい中央地区とあわせて、ゲート性を持つ都市像を形成するということで、そこで意図することはこういうことですということで形態を規定しているわけではなくて、ただ、やはりゲート性としての新しい建築というのを、MMとあわせてうまくつくっていくという、そういったところをちゃんと望みますということを載せさせていただいています。コンセプト２では、その中でつくっていくときに、20ページのアイデア⑧のところですが、山下公園ですとか山手地区といったところの関係性を意識してつくってくださいということを述べさせていただいています。あと、ソフトの話もかなり出ていたのですが、21ページのアイデア⑩の水上交通の話ですとか、⑪の夜間景観です。こういったところも、ここだけではなくて、インナーハーバー全体で新しい夜間景観をつくっていただくといったところを入れさせていただいたりしています。あと、ソフトのところでは、26ページのアイデア㉘です。こちらは、先ほどＤＭＯのお話があったかと思いますが、こういった景観的なところですとか、賑わいをつくっていくためのソフトを連携しながらやっていくというようなところも載せさせていただいています。こちらでまだ足りない部分は載せさせていただくということを続けながら、今いただいた意見をさらにブラッシュアッ

プさせていただいて、もっと強化をしていくことはできると思います。今、国吉委員などがおっしゃられたようなところで、コンセプト１とか２と書いてあるところは、先ほどもお話があったような形で３月６日から意見を募集させていただきたいと思っています。コンセプトのところについては都市美の意見も聞いた上で、できればその内容を市民の方にもお伺いしたいということがありますので、今言った、つけ加えるところはつけ加えていくという前提の中で、もう少しコンセプトのところでこういったところがあったほうがいい、もしくはこのままでいいということであれば、これを了承していただいて６日からかけたいというところがあります。時間もだんだん押してきたところもありますので、できればコンセプトの書き方ですとか、ここについては抜けているのでぜひ入れてほしいというところがあれば、そこを中心にご意見をいただければと思いますので、お願いいたします。

（鈴木委員）

今のお話とはずれてしまうのですが、西村先生がヨットのお話をなさったので思い出したのですけれども、ここの山下ふ頭のあたりの海辺というか太平洋側は、居留地の外国人の山手に住む方々がヨットのレースとかをやったところですよね。だから、ヨットのある景観はすごくいいなと思っています。例えば、今年ホテルシップでサン・プリンセスというのが来るそうですが、私はストックホルムにいるときにホテルシップに泊まったのですけれども、それが大型のヨットだったのです。ハリウッドの女優さんが持っていたという白亜のきれいなヨットでして、それが港のすごくいい景観のところにあって、夜も白亜で、そこに明かりがともるので、とてもきれいだったのです。外国人の方が多かったのかもしれませんが、泊まるだけではなくてレストランなども地元の方が行ったりできるような感じで、すごく雰囲気がよかったのでよく覚えているのです。横浜博覧会のときにはクイーン・エリザベスⅡが来まして、ホテルシップになりましたが、ああいう大きなものばかりでなくて、本当にそういう大型のヨットというのがあるかどうかわかりませんけれども、そんなようなものも活用するというか、大きいものだけではなくて、小さなところもいろいろ目配りしてやっていくと雰囲気が出て、無機質にはならないまちづくりになると思います。ヨットなどはすごくいいと思いました。

（関委員）

パブリックコメントに提出する部分ということで言いますと、方向性の中の景観形成の中の４ページです。４ページの最初から出てくるのですが、横浜イノベーションＩＲという単語が使われているので、世界最高水準になるかどうかはわからないけれども、これが多分横浜で目指すもので、まさに、シンガポールでもマカオでもラスベガスでもほかでもなくということだと思うのです。この言葉はいいと思うのですが、何か肉づけを少しできればと考えていました。

それから、その４ページですが、新たな都市づくりの１ページという表現とか、その下の３番のところで、先ほどの西村先生のボストンの話に関連するのかもしれませんが、多様なストーリー性を持つ景観みたいなもの、こういう言葉というのはとても大事だと思うので、少し強調するとか、コンセプトのテキストとして少しはっきり、もしできるのであれば強調していただきたいなと。これはいい意味でうまく使っていただきたいと思いました。

それから、アイデアにいろいろ出ている中で、ヘルシンキではなくてドバイの風景がありましたが、あそこの周りは砂漠なのだけれども、そこの中心部のブルジュ・ハリファの周りに巨大な水面を人工的につくっているのです。この場所は港ですから水に囲まれていますけれども、何かそういう水面の扱いというのは少し強調して、それこそ多様なストーリー性をつくるときの一つのアイテムとして考えてもらえるような誘導をしてほしいと思いました。以上です。

（西村部会長）

ありがとうございます。幾つかのキーワードがありましたが、横浜イノベーションＩＲに関しては、これは別紙の冊子ではちゃんと説明してあるということなのでしょうか。

（森課長）

補足させていただきます。方向性の中では、概要版でもございますが、一番最初に横浜イノベーションＩＲということで打ち出しておりまして、山下ふ頭だけでなく、都心臨海全体、横浜全体をイノベーションしていくという思いを込めて横浜イノベーションＩＲと掲げさせていただいております。それにつきましては、方向性の前段のところでご説明をしています。

それから、今ご意見いただいたコンセプトの部分ですが、新たな都市づくりの１ページというところは、まさに今回のコンセプト２番目の大事な部分だと思っていまして、表題にも掲げております。まず、インナーハーバーの一員であるということをしっかり言った上で、その横浜の都市づくりの新たな１ページをつくるというものをコンセプトの表題としておりますので、文章中も強調していければと思います。

	それから、３番の多様なストーリー性、さらに水域の使い方ということで、文章中の２段落目になりますが、既存の都市構造の枠組みにとらわれない、横浜の景観を楽しむ新たな視点場、多様な水域を活用したアクティビティなど多彩な体験の場の創出ということで、委員におっしゃっていただいていることとまさに同じ思いでおります。先ほど、ドバイの事例を挙げていただいたのが、多分23ページのアイデア⑮というところかと思います。まさに山下の地区特性でも出てきます、水面に囲まれているというところを事業者には最大限生かしてほしいということで、客船だけではなく水辺のアクティビティ、ＳＵＰ、カヌー、船だけでなく水上ショーであったり、様々な提案をしてほしいということで、水域の活用というのは重視していきたいと考えております。 （松嵜部長） 委員からもありましたので、文章中ゴシックにするとか、ちょっと強調するような工夫をさせていただきたいと思います。ちょっと文章が平たく見えてしまいますので、少し強調するとか、そういった工夫をさせていただきたいと思います。 （関委員） まさに新たな１ページというのは、20世紀の計画がみなとみらい21等だったと思うのですが、21世紀の前半のプロジェクトですので、その辺の、新しいことに挑戦してすばらしいものができるというのを少し前面に出して、市民の方とかに訴えていくのがいいと思います。 （大西委員） 景観と直接は関係ないかもしれないのですが、決して全く関係ないことではなくて非常に重要なことだと思うのは、この方針７のところに高い防災・安全性を持つまちづくりということが書かれているわけでございます。全くこのとおりには違いないのですが、絶対安心な施設であるとかものづくりというのは残念ながらないわけです。ここのところ、それでなくても地震にしても風水害にしても想定外だ想定外だと。想定外というのは結局、過去に比べて想定外というだけで、将来何が起きるか、今回のウイルスや何かのこともその一つかもしれませんが、そうすると100％安全なものというのは無理なのか、万一起きたときの対応・対策であるとか、対応に応えられる施設等も、これから新しく始まる山下地区においてはぜひ考えていただけないかと考えているわけですけれども、いかがでしょうか。 （松嵜部長） 横浜ＩＲの方向性の50ページにも書かせていただいているのですが、災害に強くしなやかで、自立的なまちづくりということで、通り一遍の表現になってございますけれども、このまちづくりは、１事業者が一体的に建設し運営するというのが非常に強みだと思ってございます。そういった意味で、危機管理的なこともしっかりとやらせるとともに、例えば消防だとか警察署とか公共施設との連携、今、県警や消防と協議をしていますが、まちづくりの中にもそういった機能を組み込みながら、一体的に次の災害や危機管理のときも迅速に動けるような体制をつくりたいということで、それは実施方針の中でも要求してまいりたいと思ってございます。 （森課長） 少し補足いたします。「横浜ＩＲの方向性」の50ページなのですが、こちらについても市民意見募集に向けて内容をさらに深めているところでございます。おっしゃったとおり、災害がいざ起こったときには、そこにいらっしゃる方々が帰宅困難者ということになりますし、あとはそのための備蓄ですとか、非常用の電源ですとか、そういった高い防災性のものを求めていきたいと考えております。さらに、ここの区域には周辺の人たちも受け入れられるような、防災面での拠点のような役割というのを求めていければと考えているところです。 （中島委員） パブリックコメントの４つのコンセプトの２、インナーハーバーのところなのですが、インナーハーバーとそのまま言ってもあまり理解されないのではないかと少し感じています。私自身もわからないふ頭がありますし、大黒ふ頭というとパーキングのイメージしかないので、海都横浜の話だったり、もうちょっとそれぞれのふ頭がどういう性格や歴史を持っていたりというのは、ここの資料に載せないにしても別紙で添付するといいと思いました。 あと、東京でも似たような海を使ったプロジェクトというのを幾つかやっていると思うので、横浜とどう違うかというのも載せられたらいいかと感じました。 また、少し読んでいて、どうしても片仮名語、横文字が多いと思って、ＳＤＧｓだったりショーケースだったり、少し読みづらいかと。特に、コンセプト４が読みづらいと私でも感じたので、もっとお年を召した方だったらどうなのかというのは少し感じました。

	（西村部会長） なるほど。片仮名語が多いというのと、我々はわかりますが、インナーハーバーは大丈夫なのですか。 （松嵜部長） 重要な視点だと思いますので、しっかりとわかるような解説をつけるとか、コラムなり、工夫をさせていただきたいと思います。 （西村部会長） コラムで入っていますか。 （梶山書記） 11ページです。インナーハーバーがわかりづらいというところもあったので、内港地域というのを使ったりしているところもあったのですが、上位計画とかでインナーハーバー構想ですとか、そういったことをやっているというのもありましたので、インナーハーバーの位置づけについては11ページで整理させていただいた上で、その後なるべくインナーハーバーという共通の言語で説明していくというふうに、今は整理させていただいています。 （松嵜部長） パブコメのときは確かにインナーハーバーでこちらのページには飛ばないので、少し工夫をさせていただきたいと思います。 （西村部会長） 例えば３ページの下の図はまさにインナーハーバーの図なので、ここのところで一言でも書いてあれば、こういうのがインナーハーバーだとわかるのではないでしょうか。 （中島委員） 片仮名の文字はこのままですか。 （松嵜部長） 片仮名はできるだけ日本語に、できる分にはしていきたいと思うのですが、例えばガーデンシティとかいうのはこれ自体がもうキャッチフレーズになってしまっていますので、そこの部分はご勘弁を願いながら、それが意図するものが何かということをわかりやすく表現するような努力はしてまいりたいと思っております。直せるものは直していきたいと思います。 （国吉委員） クリエイティビティは創造性にできるか。 （西村部会長） ストーリー性は物語性がいいかもしれないですね。それぐらいはできるかもしれません。 （松嵜部長） その辺は、大半の方はわかると思っています。 （西村部会長） いや、300万市民を相手にするので、大変です。工夫はしていただくと。 全体としては、ここがまずいというご指摘はなかったと思います。ただ少しずつ、ゴシックでやるとか、インナーハーバーを説明するとか、世界最高水準のＩＲみたいなものを若干書き加えるというような形で誤解がないようにしてもらえばいいのではないかと。大きな柱の立て方だとか、論旨の主張の仕方に関しては、大きな問題点は指摘されなかったのではないかと思います。ということで、３ページ、４ページに関しては、若干訂正を事務局から提案していただいて、それは私のほうでやりとりさせていただくということで、その結果は委員の皆様方にご報告するという形で進めてよろしいでしょうか。 （異議なし） （西村部会長） ありがとうございます。では、３ページ、４ページに関してはそういう形で進めたいと思います。その後、後ろのほうはいろいろな、ソフトだとか、仕組みだとか、市としての思いみたいなものをもうちょっと先に出してほしいとかいうことが出たと思いますが、ほかに具体的なアイデアのところでこれはよくないとか、この写真は誤解を招きやすいとか、そういうことでも結構ですので、何かあればと思いますが、いかがでしょうか。この冊子全体は、市民にもどこかの段階では公開するのですか。どういう形になっているのでしょうか。 （松嵜部長） 実施方針は公開されていきます。ただ、公募要項につきましては、どうなるかがまだ決まっており

	ません。 （西村部会長） わかりました。ほかはいかがでしょうか。全体としては、アイデアに関しても特に大きくここをこういうふうに変えろということはなかったように思います。もうちょっと改善するとか若干つけ加えるとか、特にソフトのところに関するご意見が出たと思いますが、そこをつけ加えるというぐらいの改定で済むかなというのが雑感の印象です。どうぞ （国吉委員） 別にこれに書かなくてもいいのですが、先ほど中島委員からもあったように、東京が手を挙げるかどうかは別として、ほかもいろいろ手を挙げようとしているところがあります。そういうところは、こういうところを日本の中で打ち出してくるだろうみたいな、そういう裏の作業みたいなものをちゃんとやられて、横浜としてはこの辺を大事にしていくみたいな内部の議論というのはされているのですか。外へ出すと敵に手の内を見せるようなことになって難しいのでしょうけれども、横浜の独自というのが、では何が独自になるのだという、外に出さないにしても皆さんで議論したものがあれば、それをお聞きしたいと思いました。 （松嵜部長） 今のご質問だと、他都市の動きが今どうなっているかということを踏まえて横浜市側はということだとは思うのですが、他都市でオープンしているのは大阪が先行していて、実施方針まで出して公募選定に入っているという形になっています。まず基本構想というのを出して、実施方針が出されて、事業条件書等はまだ我々は入手できないような形になっているのですが、基本構想で横浜市がつくっているＩＲの方向性みたいなものを出しまして、実施方針は非常に淡泊なものです。これは多分、手の内を見せていないのだろうという非常に手続的なものを出されて、多分、事業条件書等のほうにかなり要求水準が書かれているのだろうという推測をしています。それは入手できておりませんし、大阪も出していないと。では、大阪は景観のことに関して触れているかというと、我々が情報をとっている中では、ほとんどこういったことは触れていない形にはなっています。そういう意味では、今回我々がこういうことに触れることに関しては、横浜の独自性が出るのかなという認識はしております。 （国吉委員） わかりました。向こうはまだ出していないにしても、結果的に大阪とか長崎とか和歌山とか、そういうところを舞台にすれば、こういうところを売りにしてくるだろうというのをつかんだ上での横浜の空間の特性づくりといいますか、そういうことになっていくべきだと思うのです。それは別の機会にでも聞かせていただきたい。 （西村部会長） ありがとうございました。私も、今お聞きして１つ気になったのは、デザインノートに力を入れてやられているのはよくわかるのですが、本当の選考に当たって、選考する人がこれを無視されたら全く意味がないのだけれども、その辺は大丈夫なのでしょうか。これよりも重要なことがある、こんなものはいいのだと言われたら、この努力は何だったのだろうとなるのですが。 （松嵜部長） 実はこの市会に附属機関の条例を上程しています。附属機関は何かといいますと、事業者を選考する市の附属機関をちゃんとつくりますということで、可決されております。これから委員を選定しまして、附属機関では募集基準みたいなことも含めて、実際の議論に入っていただくという中で、やはりこれも附属機関に提示して見ていただくという形にはなります。 （西村部会長） そういう意味でいろいろなものが出てくるのでしょうから、その中のワン・オブ・ゼムになってしまうわけです。そのときに、選定する人の中にこういうことがよくわかっていて、大事にしてくれるような人がいてくれないと、これもわかるけどもっと経済が大事だとかいう人ばかりが選考委員になってしまうと、せっかくここでやっていることが生きないので、その辺をぜひ工夫してもらいたいと。 （松嵜部長） 附属機関のメンバーですが、いろいろな分野から選ぼうということで、都市計画の分野ですとか、今おっしゃった観光ＭＩＣＥですとか、経済の分野ですとか、そういった分野の方から専門委員を選んでいくという形になりますので、まちづくりに関してはしっかりと選定をしていきたいと思います。

	（西村部会長） ぜひ、その辺をやらないと努力が全く無駄になってしまうので。 （松嵜部長） できれば横浜のまちづくりをしっかりわかっている先生に、我々もご依頼したいということです。 （西村部会長） よろしくお願いします。ほかに何かありますか。全体を伺っていると、ほぼこれは微調整で済みそうな感じがしますが、事務局、どうですか。 （梶山書記） コンセプトについては部会長預かりで確認していただいて、それを各委員に見ていただき、最終的にはお返しするという形でやらせていただこうと思っているのですが、後半のアイデアの部分につきましては、今日いただいた意見をもとに事務局で幾つか修正させていただきまして、それをどういう形で反映させていただこうかというところかとは思うのです。 （西村部会長） どうしましょう。部会長預かりでいいのか、もう一回集まってきちんと見たほうがいいのかというのはいかがでしょう。今の全体から言うと、今日、出た意見をちゃんと明記していただいて、こういうふうに対応するということがはっきりしていて、私もチェックさせていただきますが、そのことがフィードバックされれば大丈夫かと思いますけれども、どうでしょうか。 （梶山書記） でしたら、事務局のほうで、コンセプトについては先ほども申し上げたとおり３月６日ということなので、基本的には部会長預かりで確認していただくということにしたいと思うのですが、アイデアにつきましては少し時間もありますので、確認していただくのは各先生方にも見ていただくということで、それをまた事務局で取りまとめて、最終的なものをお返しするという形でよろしいでしょうか。 （西村部会長） そうですね。では、そうしましょうか。どういうふうに変えるという方針を立てて、具体的にこういうふうにしたいという事例も含めて、中身を改定したものも含めて、委員の皆様方に送って、メール上でやりとりしていただくということで、最終的な取りまとめは私に一任していただくとしても、報告ではなくて一度チェックができるという形にしましょうか。よろしいですか。 （梶山書記） はい。では、こちらで案を作成させていただいて、また先生方にお返しさせていただきたいと思います。 （西村部会長） それでは、後ろのほうのノートに関しては、こういう形でメール上でやりとりをするということで、最終的な取りまとめは一任とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。 （国吉委員） 例えば18ページのコンセプトを具現化するためのアイデアのアイデア③で、超高層はと書いてありますが、超高層を前提としているように見えてしまいます。超高層を否定はしないけれども、全体に個性的な街をつくるという中で超高層も出てくるのですが、超高層ありきみたいな感じの表現になっています。その辺の表現の仕方というのは非常に重要だと思います。その辺は、本当はこういう提案の仕方をしたいと、こうするとこういうのも出てくるだろうみたいな、既に幾つかあるのかもしれないし、非公式にこんなのはどうでしょうみたいな問い合わせが来てみたいなことも含めて、少し俎上にのせてもらったほうがわかりやすいと思うのです。 （西村部会長） どうしましょう。でも、そこも含めてそれぞれ当たっていただいて、コメントをいただく。多分、今のところは超高層が必要な場合はとでも書いてあればもうちょっと薄まるのだろうけれども、最初から超高層ありきに感じられるというような文言の問題はあると思うのです。それは一個一個見ていかないと、そして、見ていくというのはちゃんと時間をとらなければいけない。ちゃんとヒアリングしたほうがいいような気がします。この部会としてもう一回説明しても同じようなスピードで行ってしまいます。個別ヒアリングでまとめてもらって、意見としてこんなものが出ましたとやればいいと思いますが、いかがでしょうか。 （松嵜部長） そうしましたら、各委員に回らせていただいて、意見をいただいた上で委員長に集約させていただ

	く形にさせていただきたいと思います。 （西村部会長） 　そうしていただいたら丁寧ではないかと思いますが、いかがでしょうか。 （異議なし） （西村部会長） 　それでは今後の予定を事務局からお願いします。 （梶山書記） 　こちらにつきましては、先ほど部会長にも整理していただいたとおり、個別に委員を回らせていただきまして、最終的に景観デザインノートをまとめさせていただきたいと思っております。資料１にも書いてございますが、今後、都市美対策審議会で審議をしていただくというところでは、基本協定を締結した後に区域整備計画というものを事業者と横浜市で策定することになりますが、その際に区域整備計画の案の段階についても都市美対策審議会でご意見をいただきたいと思っております。また、その際にご提案させていただくという形でお願いしたいと思います。 （西村部会長） 　では、そういう形で進めていただきたいと思います。 （梶山書記） 　あと、次回の政策検討部会につきましては、また別途日程については調整させていただければと思っております。 ３　閉　会 （西村部会長） 　それでは、これをもちまして第21回の都市美対策審議会政策検討部会を閉会したいと思います。
資　　料	・次第、参加者名簿、座席表 ・資料１：魅力ある都市景観の形成について
特記事項	・次回の部会は、別途日程調整の上、開催。